

やすらぎ通信

平成30年
新春
号

0120-31-2774 やすらぎホールみさと 仏事相談随時承り中
お電話頂ければ専門スタッフがご自宅へ出向いてのご相談も承ります

年末年始のご挨拶

2017年も残すところあと僅かとなりました。皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本年は格別のご愛顧を賜り、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

今年は、やすらぎホールたじりのオープン。やすらぎホールみさとのエレベーター増設や、やすらぎホールわくやにおいての地域交流月例イベントの開催。お供物のカタログ。また、会館のお料理のリニューアルなど、さまざまな角度から地域皆様に満足いただける企業をめざし変化し続けてきました。

2018年も地域と共生し地域の皆様に信頼される企業をめざし、弊社一同、お客様に満足頂けるサービスを提供する所存でございますので、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



株式会社みどりのサービス
代表取締役社長 佐藤茂之

みどりの葬祭センター地域交流月例イベント 第6回

「フラワーアレンジ教室」

～早春の花を楽しむ～

まだまだ春は遠いですが、ひと足先に
さわやかで暖かな春を自分の手で
作り上げてみませんか。



必要な道具は、
こちらで準備いたします
要予約・定員約20名



チューリップの花言葉は
「思いやり」

2018年 1月25日(木)
10:00～

予約・お問い合わせ イベント事務局 0229-33-2315 やすらぎホールわくや

地域交流月例イベント報告



11月28日「やすらぎホールわくや」において、地域交流イベント

『ラフターヨガ体験』が行われました。当日は緊張気味で集まった参加者の皆様でしたが「好きな色」と「好きな食べ物」を混ぜた自分のニックネームで自己紹介の握手とハイタッチ。ハワイに向かって「アロハー!!!」と叫んだりしていました。参加した「オレンジ焼肉」



さんは、とにかくアハハオホホと、アツハツハツハ、オツホツホツホとずっと笑ってました。最後には打ち解けあった参加者の皆様はとびっきりの笑顔で「また、会いましょう!」「第2回目がある時は、必ず参加するから!」と興奮気味におっしゃってました。



葬にまつわる体験談

「黄色いお札」



【愛知県 男性 教員 55歳】

祖母に父母、それに私以下5人の弟や妹がいる良家の跡取り息子のところへ嫁にきた義姉は、農閑期には近くの鉄工所へパートに行って家計を助けるという働き者であった。その義姉を病魔がずたずたに切り裂いたのは、私を始め弟や妹達のほとんどを独立させたり嫁に行かせたばかりの頃だった。これから少しは楽な暮らしができそうだという時のそれは哀憐きわまりない死であった。

葬儀屋さんが組んでいってくれた祭壇の前で兄弟親族悲しみにくれていると、もう長い間、病の床にっていた祖母が私を呼んでいるというので、別棟の祖母の病室をのぞいた。祖母は蒲団の上に身をおこし、袋から一枚また一枚と大事そうにお札を取り出し、押し戴いては、右、左と2つに分けていた。

「お札を2つに分けて、どうするつもりだろう」と、不思議に思いつつ、「何の用?」と、祖母の前に座って声をかけた。すると祖母は、「頼みたいことがある。直接、兄に言うのがほんとじゃが可哀想で言えん。ここにわしが若い頃から札所を巡拝して迎えてきたお札がある。わしが死んだ時、冥途のお守りに持っていこうとためといたものじゃ。今それを半分に分けた。それを先立った嫁に持たせたくれ。ちっとはあの世で幸せに暮らせるかも知れん。嫁はまだ若いでお札なぞ一枚も用意しとらんじゃろう」と、目を真赤にしてお札をさし出した。見ると、そのお札はどれも古くて黄色く変色したものばかりだった。祖母が一生懸命歩いて巡拝した信心と汗のお札--。大事にしてきた、しかも死期が近づいている祖母にとっては今一番必要なお札--。と思った時、私は「わ、わかった婆様。ありがとうな」と思わず祖母に全掌しお札を受け取っていた。兄に伝えたと兄は鳴咽して棺をあけ、お札を妻の頭陀袋に入れたのだった。〔セキセー（葬にまつわる体験談）引用〕